

まちづくり

Industrial Promotion & Partnership

産業振興&協働

南会津郡と西白河郡 災害時相互応援協定締結

南会津郡（下郷町・桧枝岐村・只見町・南会津町）4町村と、西白河郡（西郷村・泉崎村・中島村・矢吹町）4町村との「災害時における相互応援に関する協定」の締結式が1月30日、白河合同庁舎で行われ、各町村長が協定書に署名しました。

南会津郡と西白河郡は那須連峰を挟み東西に位置し、気候が大きく異なるため同時に大水害などに襲われる確率が低いとされており、国道289号甲子道路の開通で移動時間が大幅に短縮されました。

協定では、大規模災害発生時に被災町村の要請に応じて、食料などの救援物資や応急対策用資機材の提供、救助に必要な人員派遣などの内容が盛り込まれました。



白河市・西白河郡と県LPガス協会白河支部 災害時LPガス供給協力協定締結



白河市・西白河郡4町村と県LPガス協会白河支部（会沢真一支部長）は2月3日、「災害時におけるLPガス等の供給協力に関する協定」を締結しました。

協定では、東日本大震災での燃料不足を教訓として、災害が発生した場合に必要なLPガスの供給をはじめ、炊事用具や暖房器具などの供給について定めています。

締結式は白河合同庁舎で行われ、同協会白河支部の会沢支部長と後藤正三郎副支部長、各市町村長が出席し、県南地方振興局の小野和彦局長立ち会いのもと、協定書が取り交わされました。

(株)ユーラス矢吹中島太陽光&矢吹町・中島村 太陽光発電施設に関する協定締結

株式会社ユーラス矢吹中島太陽光（高島哲代表取締役）と矢吹町、中島村は1月31日、「太陽光発電施設の立地に関する基本協定書」を締結しました。

同社が建設する大規模太陽光発電施設（メガソーラー）は「ユーラス矢吹中島ソーラーパーク」で、2月に着工、平成27年3月に操業開始予定。矢吹町中畑南地内及び中島村滑津地内の民有地約28ヘクタールに、約5万枚の太陽光パネルが設置され、年間発電量は一般家庭約3千世帯分に相当します。

締結式は町役場で行われ、小野県南地方振興局長立ち会いのもと、高島代表取締役、野崎町長、加藤幸一村長が協定書を取り交わしました。



矢吹町内農産物等の放射性物質検査結果のお知らせ

矢吹町放射能測定センターで測定しました町内農産物と井戸水の放射性物質の検査結果は、次のとおりです。

測定は予約制となっておりますので、事前に申し込みをしてください。(電話29-8741)なお、測定できるものは一般流通物を除く、農産物・井戸水・農業用培土等で、測定には1kg、きのこに限り500gからの検体が必要です。

食品衛生法に規定する基準値	セシウム 134, 137 合計値	区分	平成24年4月～
		飲料水	10ベクレル
		一般食品	100ベクレル

(検査日：平成26年1月7日～平成26年2月5日 総数：31件) 単位：ベクレル (Bq/kg)

種類	検体名	検体数	検査結果 セシウム134	検査結果 セシウム137	検体採取地
穀類	ダイズ	1	検出限界以下	6.1	東郷地内
農産加工物	ホシガキ	1	検出限界以下	7.3	奉行塚地内

以下の農作物等是不検出となっています。

- 【野菜】 アブラナ・キャベツ・コマツナ・サトイモ・ジャガイモ・ダイコン・ナガイモ・ニラ・ニンジン・ハクサイ
ホウレンソウ・ミツバ・ヤーコン・レタス
- 【穀類】 アズキ・キントマメ・ゲンマイ・パンダマメ
- 【農産加工物】 シミダイコン 【その他】 ギンナン

☎ 産業振興課 農政係 ☎ (42) 2115

私のひと言



矢吹町長
野崎吉郎

「二度の大雪に思う」
8日、そして14日の二度に亘り降り積った雪は、想像を超える被害を当地、並びに全国各地にもたらした、また、交通、生活にも大きな混乱をもたらした。東北のこの季節特有の見慣れた雪も、大雪となれば話は別で、厄介の上ない。8日の大雪は、雪がすぐに降り止まないことを見越し、朝一回、そして積雪の状況を確認し、昼前にもう一回雪をかけた。それまでに20cmは降ったであろうか。しかし、意に反して雪は、なかなか降り止まなかった。翌早朝、公務で遠出しなければならず、心配になり夜もう一度外に出てみた。また10cm以上積っていた。三度目の雪かきが終る頃、雪はようやく降り止み一安心。ところが、そうそう問屋は卸さなかった。明るる早朝、いつもは真暗闇の中で目覚めるのだが、障子越しの外の様子がいつもとは違った。雪が降った日独特の雪明りが部屋をポーと照らす。ハッとしながら廊下に出、カーテ

ン越しに外の様子を窺った。がく然とする。何とまた20cm以上の雪。昨日からどれ程降り積ったのであろうか。予想もつかない。兎に角、朝からの公務をこなす為にも、パジャマ姿のまま、道路に面した庭先と歩道の雪をかく。昨日から都合四度目の雪かき。腕と腰が痛むほど、疲れた。後で知ったことだが、50cm以上の降雪。県内では13年ぶりの大雪だったことが判明。しかし、これが終りではなかった。もうこれ以上の大雪は降らないだろうと勝手に決めつけ、高を括っていたが、14日にまた降った。しかも、想像を絶する大雪が降った。8日の雪は、東京都心で45年ぶりとなる27cmの積雪を観測。千葉では観測開始以来、最大の33cmを記録し、北国といえば雪といったイメージの強い仙台市でも78年ぶりとなる35cmの積雪を記録。14日の「バレンタイン大雪」は、白河市で福島気象台観測史上最大となる76cmの積雪を記録する大雪となった。今回の大雪、特に14日の場合、私の遠い記憶の断片を辿れば、34年前の昭和55年12月の「クリスマス大雪」を凌ぐものであった。私の両親もはるか昔に一度あったかどうかの大雪であったと言った。記憶にも記録にも残る大雪であったことは疑いない。

二週続けての大雪により、終日、道行く車はツルツル滑り、ノロノロ運転で町は大混乱。不便、危険極まりない。町除雪担当課の電話は、今も鳴り放した。建設協会の皆さんの連日、しかも夜を徹しての懸命の除雪に感謝しながらも、多くの町民生活にご迷惑をおかけしたことについては、心からお詫びしたい。

この後も南岸低気圧の影響で大雪が降るとの予報。昨夏の異常な暑さを思い出しながら、これ以上の異常気象による雪の「イタズラ」が私たちの身に降り懸からないことを祈るばかりだ。

かつて体験したことがない大雪に見舞われた厳冬のこの時期、考えるのは待ち遠しい暖かな春のこと。しかし、春の到来はまだ、先。2月3月の気象予報では、例年になく気温が低く厳しく、降水量も同様で、雪も多くなるという。当分の間、またいつか降るだろう大雪も覚悟しながら、雪への備えを怠らないようにしなければならぬ。

こんな言葉が頭に浮かんだ。「冬来たりなば、春遠からじ」。春は必ず来る。やがて梅の花が咲き、桜の花が咲く。そんなことを思い浮かべながら、厳しい冬の日、一日を過ぎ行く。今、風邪が、インフルエンザが流行っている。健康にお過ごし頂くことを願います。今月のひと言とする。